

発達障害児の天与の才を開花させる放課後スクール 「ギフトター・ラボ」で社会起業大学のグランプリ

ギフトテッド (Gifted) Ⅱ天から授かった才能を持つ者の意。彼らは、特定の領域で高い能力や創造性、集中力などを示す一方、集団行動やコミュニケーションが苦手など、発達にばらつきがある。日本では発達障害者と呼ばれる。

効率学校に限界があるならば 社会事業としてやってみよう

山崎さんの2人のお子さんも発達障害児で、子どもたちと過ごす中でその豊かな才能に気付いたという。しかし、将来を考えたとき、日本の学校では彼らの才能を伸ばしてくれるようなクラスは少なく、療育という社会適応力を補う教育が、主に行われている。

日本の、特に公立学校は、教える側の効率性に基づいた集団教育や、平均学力が優先されるため、発達障害児の多くが蚊帳の外に置かれる。進学の道が閉ざされ、将来引きこもりや精神疾患を引き起こすなどの、二次障害も少なくないのだ

という。

ただ、限られた財源の中で、行政が個別教育を実施することは、難しい。

生徒1人に複数の教師で 才能を引き出し伸ばす教育を

そこで、放課後を利用し、地域社会全体で、個々に与えられた才能を伸ばす教育を、社会事業として起こせないかと山崎さんは考えたのだ。

山崎さんの考えた「ギフトター・ラボ」は、

放課後スクールの形態をとる。小・中学生のギフトテッド1人に対し、複数人のギフトター(各分野の専門家などで構成されるボランティアの教師)が、子どもの才能・長所を発見し、その子が一番受けたい授業を提供する。ギフトテッドの才能に触れながら指導・交流していくことは、ギフトターにとってもさまざまに得るものがあることを、自身の体験を通して訴える。

体験的授業や親の相談・交流の場も兼ねたONスクール(月1、2回)と、Eラーニングによる毎日のOFFスクールで構成。OFFスクールとサービスの運用には、SNS(フェイスブック)を活用する予定だ。ギフトテッドの子どもそれぞれがグループページを立ち上げ、ギフトターを募る。

我が子からのギフト

社会起業大学(田中勇一代表の「ソーシャルビジネスグランプリ2011冬」において、山崎氏の「ギフトター・ラボ」事業案がグランプリを獲得した。実現への自信を深めるとともに、「この事業の発想そのものが、我が子からのギフトだと感じています」とコメントした。

終業後や週末のボランティアな活動のため時間は制約されるが、ギフトター・ラボを運営するNPOの今秋設立をめざしている。実験的な授業も準備中だ。

社会起業大学の仲間を始め多くの理解者や企業が、ギフトター・ラボへの賛同の手を上げてくれている。山崎氏の真摯な人柄と自信に満ちたお話から、近いうちの実現は間違いなく感じた。

自分自身が信頼できる先生に恵まれたことから、教師になりたかった山崎さん。しかし、大学卒業後すぐに教師なるシステムには疑問があり、教師になるにしても社会経験が必要と思ひ民間企業に就職。現在も「何をするかも重要だが、何のためにするかがさらに重要だと感じている」という。社会への役立ち意識を大切に生きる人柄が伝わってきた。

■ご連絡・協力のお申し出などは
E-mail: gifterlabo@gmail.com
Facebook: 山崎誠
Twitter: MKT_Yamazaki



シリーズ
社会起業家

ギフトター・ラボ 設立準備中

山崎誠氏に聴く